

第69期 平成28年1月1日▶平成28年6月30日

中間株主通信



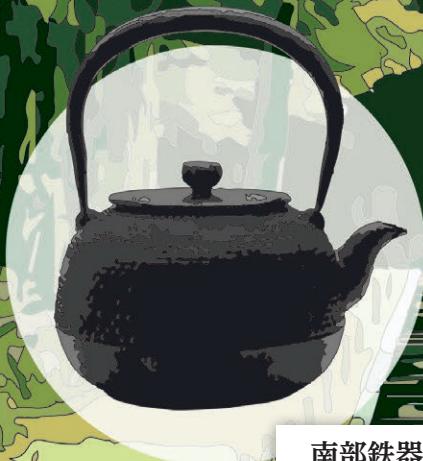
銀河のしずく



南部せんべい



わんこそば



南部鉄器

平泉

日本の
特産品

岩手県編

詳細は
10ページへ！

木徳神糧は、コメビジネスを通して国内のみならず、世界中の消費者に日本米、日本食の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。

企業価値

木徳神糧グループは、次のことに価値をおきます。

- 常にお客さまのニーズに応えます。
- お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーとの信頼関係を大切にします。
- 社業の発展を通じて社会に貢献します。

企業理念

- 誠意と感謝の気持ちを持つ企業であり続けます。
- より高いクオリティを追求する企業であり続けます。
- 新しい価値を創造する企業であり続けます。



米穀事業

家庭用・業務用の精米の製造販売、玄米の販売を行い日本の主食であるコメの安定供給に全力を注いでいます。

食品事業

製菓及び加工食品用米粉、たんぱく質調整米や米糠を原料とする米油など、コメ加工食品の製造・販売を行っています。

飼料事業

国内配合飼料メーカー等への糟糠類、輸入牧草などの飼料及び飼料原料の販売を行い、畜産業の発展に貢献します。

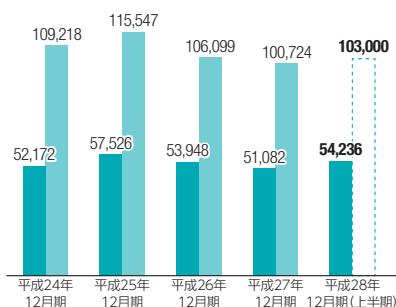
鶏卵事業

鶏卵、鶏卵加工品を販売。鮮度管理に万全を期し、農場とパック卵工場を直結させた物流体制をとっています。

連結財務ハイライト

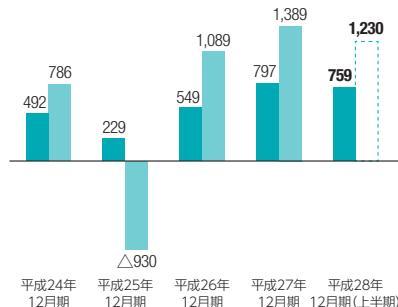
売上高 (単位: 百万円)

■ 上半期 ■ 通期(予想)



経常利益 (単位: 百万円)

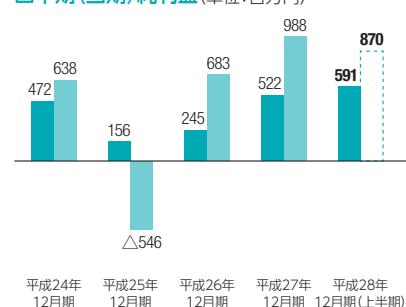
■ 上半期 ■ 通期(予想)



親会社株主に帰属する

四半期(当期)純利益 (単位: 百万円)

■ 上半期 ■ 通期(予想)



米穀事業



売上高 **44,904** 百万円
(前年同期比9.4%増)

営業利益 **991** 百万円
(前年同期比4.7%減)

- 卸業者向けの玄米の販売数量やミニマム・アクセス米の取扱数量の増加による全体の販売数量の増加、国産米の販売単価の上昇により増収
- 家庭用精米販売の採算の悪化により減益



食品事業



売上高 **3,837** 百万円
(前年同期比0.8%減)

営業損失 **25** 百万円
(前年同期は13百万円の営業損失)

- たんぱく質調整米や米粉等の販売は増加したものの、鶏肉の販売の減少により微減収
- 台湾に建設したたんぱく質調整米製造工場の稼働前の費用計上により減益



飼料事業



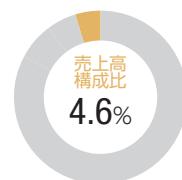
売上高 **3,002** 百万円
(前年同期比21.5%減)

営業利益 **150** 百万円
(前年同期比3.7%増)

- 配合飼料相場が値下がりしているなかでの牧草の販売数量の大幅な減少、加えて糟糠類や穀類等の配合飼料原料の販売数量減少により減収
- 販売数量の減少に伴う販売費用等の減少により増益



鶏卵事業



売上高 **2,491** 百万円
(前年同期比6.0%増)

営業利益 **10** 百万円
(前年同期は7百万円の営業損失)

- 業務用向けの一般卵の販売数量の大幅増加、鶏卵加工品等の販売の伸長により増収
- ブランド卵の利益率は依然厳しいものの、一般卵の販売拡大が奏功し、黒字転換

中期3カ年計画をしっかりとやり遂げ、
木徳神糧の次なる成長への基盤を築き、
新たな飛躍の道筋を示していきます。

代表取締役社長

平山 惇



Q 2016年12月期上半期の業績について
お聞かせ下さい。

A 好調だった前年実績には及びませんでしたが、
期初予想を上回る着地となりました。

主力の米穀事業において、家庭用精米の販売は低迷しましたが、卸業者向けの玄米販売や中食・外食向け業務用精米の販売、ミニマム・アクセス米の取扱数量の増加に支えられ、また、平成27年産米の販売単価が前年を上回る水準で推移したことにより、連結売上高は542億36百万円と期初計画を上回る着地となりました。

利益面は、米穀事業の家庭用精米販売の採算悪化、食品事業において台湾に建設したたんぱく質調整米の製造工場の稼働前の費用計上等の要因があったものの、米穀事業における販売数量増加による利益拡大、仕入手法の多様化の推進、販売コストの削減、在庫管理の徹底等が

奏功したほか、鶏卵事業の採算改善により、営業利益は予想を大幅に上回る7億26百万円となりました。鶏卵事業は、相場の下落傾向は続きましたが、業務用向けの一般卵の販売数量が大幅に増加したこと、付加価値の高い鶏卵加工品の販売が拡大したことで、利益が大きく改善しました。

加えて、連結子会社の固定資産売却による特別利益の計上等もあり、親会社株主に帰属する四半期純利益も5億91百万円と前年同期比13.1%増となりました。

当年後半から始まる平成28年産米の新米価格は、平成27年産米を上回る高値でスタートすると見られますが、消費者の生活必需品に対する低価格志向は依然根強く、家庭用向けのコメ消費の落ち込みが予想されます。また、飼料米の作付け拡大に伴い、業務用米の需給が逼迫してくることも考えられます。そのような場合

には、お客様へ安全・安心なお米を安定供給する姿勢を貫くとともに、われわれ米穀卸が調整弁的な役割を果たしていかなければなりません。そして、7月26日に開示した鶏肉を扱う連結子会社である内外食品(株)の株式譲渡による食品事業の売上高の減少等を鑑み、通期の売上高予想は期初の通りに据え置きました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、株式譲渡益の発生等の影響を反映した予想値に修正しています。

Q 最終年を迎えた中期3カ年経営計画の進捗状況はいかがですか。

A 3つの成長戦略ともに、打つべき手は確実に打っていると認識しています。

「広域卸の機能強化・仕入れルートの多様化」では、需要拡大が続く九州地区における新たな精米拠点として出資した「JA食糧さが」の稼働率を向上させ、黒字転換させると同時に、当社の精米コストおよび物流コストの低減に効果を出し、両者にメリットのある関係を構築しました。

さらに、東北における供給体制をより強固なものとするため、これまでも精米業務を委託してきた「純情米いわて」へ15%の出資を果たし、関係強化を図りました。岩手県は、シンガポールをはじめとした海外への米の輸出等に関して協力関係が築けており、今後も連携を発展させていきたいと考えています。また、これにとど

まらず、今後も広域卸として安定的かつ効率的な供給を意図し、日本全国に既存する精米工場の設備活用の取り組みを拡大しながら、全体の稼働率向上に取り組んでいきます。

「日本米・ジャポニカ米市場の創造と開拓」については、国内ビジネスはもとより、海外ビジネスのさらなる拡大が重要になってくる中、現行の中国ビジネスの拡大に加え、中国向けの日本米輸出を開始します。上海地区への北海道産米の輸出を成約し、近日出荷予定です。まだ量は少ないですが、巨大消費市場である中国への輸出は大きな第一歩だと考えています。一方で、円高等で国産日本米の価格が高くなりつつあり、従来からのベトナム産ジャポニカ米に2016年初めより作付けを開始したベトナム北部で収穫するコシヒカリやあきたこまちといった優良かつ価格競争力のあるベトナム産ブランドジャポニカ米を品揃えに加え、幅広い商品でシンガポールやマレーシア等の第三国やベトナム国内での販売拡大を目指します。ベトナムの連結子会社アンジメックス・キトク社は今年創業25周年を迎えましたが、今後10年20年を見据え、ベトナム事業の収益を拡大していきたいと考えています。そのために北部における戦略的パートナーシップの構築や、日本式の乾燥精米設備等の導入を検討し、順調に拡大している海外ビジネスをより加速させる取り組みを進めていく計画です。

「付加価値商品の拡大」では、鶏卵事業におけ

る加工品ビジネス拡大の取り組みが奏功しました。また、連結子会社である台湾木徳生技(屏東県・台湾グリーン・バイオパーク)における酵素を用いたたんぱく質調整米「真粒米」の生産拠点が3月に竣工しました。現在、日本の商品と同じ品質を確保する生産技術の実現に向け、最終調整を進めている状況です。

また、再建に注力してきた鶏肉事業の内外食品(株)については、食肉等の製造・卸売、小売、外食事業を展開するエスフーズ(株)に株式を売却し、事業譲渡いたしました。内外食品が有する資産を活かし、さらなる成長へと導いていただけるものと期待しています。経営資源を成長戦略に傾注し、事業基盤をより強固なものとする決断と新しい事業への投資を並行して実施することにより、新たな成長への道筋は一步ずつ確実に進んでいると確信しています。

**Q 株主の皆さまへのメッセージを
お願いいたします。**

**A 事業拡大・体質強化を並行してやり遂げ、
進化を目に見える形とすることで、次なる
成長への道筋を確かなものとしていきます。**

新たに策定する中期3カ年経営計画においても、広域卸ならではの機能を活かし、美味しさを追求する商品、機能性を追求する商品、安さを追求する商品など、さまざまなお客様のニーズに応える米商品の供給が重要なテーマです。

また、国内のみならず、グローバルな視野で、日本米の海外販売の拡大も含め、各地域のニーズに応える展開を意図していくことも肝要になってきます。

次なる事業拡大の取り組みをスタートさせるにあたり、9月中旬に神田小川町に本社を移転し、これまで横浜にあった飼料事業部、秋葉原で事業運営していた連結子会社の東洋キトフーズ(株)も一カ所に集結させます。オフィス機能の集約・利便性の高い立地への移転により、業務の効率化、従業員数の増加への対応を実現しています。新しい職場の環境作りは、女性社員の声を反映して進めました。

また、新年度より執行役員に2名若い人材を登用したほか、女性が活躍できる雇用環境の整備に向けての行動計画を策定しました。若い世代、女性が会社の中で存在感を示し、縁をいただいたすべての人が長く働き続けられる職場を目指したいと考えており、こうした想いを具現化する取り組みは、社内に大きな刺激を生み出していると感じています。

次なる中期経営計画の3カ年は、若い世代へと経営をバトンタッチすることを視野に入れながら、新しい木徳神糧の姿をともに描き始める期間としたいと考えています。

株主の皆さまには、引き続き当社の進化にご期待いただきますとともに、末長くご支援いただきますようお願い申し上げます。

設立25周年を迎えたアンジメックス・キトク社

ベトナム・メコン川流域の稲作地帯でベトナム産ジャポニカ米、香り米の集荷・加工・販売を行うアンジメックス・キトク社は、2016年8月1日、設立25周年を迎えました。これを記念して、ベトナム・ホーチミン市内にあるホテルコンチネンタルサイゴンで25周年記念式典を行いました。設立パーティを開催した思い出深いホテルで、設立当時から現在までの歴代社長が顔を揃え、会社の歴史と絆の深さを感じる和やかなパーティとなりました。また、記念に海外への社員旅行を開催し、大半の参加者にとって初めての海外旅行となりました。

現在、アンジメックス・キトク社では、日本式乾燥機で乾燥・精米した高品質なベトナム米をシンガポール、マレーシア、インドネシアなどの東南アジア諸国のほか、アメリカ、カナダ、EUなど世界各地へと出荷していますが、出荷数量は年を追うごとに拡大しています。また、日本企業の進出に伴い、ホーチミン市をはじめベトナム国内で日本の文化の広まりが加速しており、美味しい日本食のニーズが確実に増えています。こうしてアンジメックス・キトク社への期待が高まる中、次なる25年を見据え、ベトナム北部ハノイでのブランド日本米生産や、おにぎりショップ「東京むすび」のオープンなど新たな取り組みに着手しています。



25周年記念式典の様子



25周年記念社員旅行 in タイ・パタヤ

バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国大使を表敬訪問

6月13日、平山社長がバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使を表敬訪問し、タイ香り米の販売拡大をはじめとした当社のこれまでの取り組みを説明しました。今後の活動についての意見交換も行い、大使よりタイ文化の普及活動への支援・協力の心強いお言葉をいただきました。6月17日には、タイ大使館において、今年で13回目となる「タイ料理のタベ」を開催するなど、タイ王国政府商務省の主催する「タイランド・ベストフレンド賞」受賞者として、タイの食文化を日本に深く広める活動を継続しています。



左：バンサーン・ブンナーク駐日大使、
右：平山 惇社長

新任取締役のご紹介

この度、社外取締役を拝命いたしました秋岡栄子でございます。

木徳神糧株式会社の経営の一端を担うことになり緊張感と期待感でいっぱいです。この初心を忘れることなく、「社外からの目線」、「素人の疑問」、「株主様への説明責任」を大切にしながら真摯に取り組んでまいりたいと存じます。

私は小学生時代に東京オリンピックを、中学生で大阪万博を経験した世代です。東京のサラリーマン家庭ですが、両親からは、「ご飯は残さずに、最後の一粒まできちんと食べなさい」と言われて育ちました。富山和子さんの「日本の米」は愛読書の一冊です。

米は日本の食の基本であり、米作りは日本の文化の基盤だと思っています。今回、縁あってお米の会社に係れることは望外の喜びです。

株主の皆様のご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



あきおか えいこ
取締役 **秋岡 栄子**

生年月日:昭和31年11月26日
座右の銘:入りやすい入口に
出口はない

略歴

昭和55年 4月 (株)日本長期信用銀行(現(株)新生銀行)入行
平成22年 4月 上海国際博覧会日本産業館館長
平成25年12月 ミラノ国際博覧会日本館基本計画策定委員
平成26年 4月 静岡県通商担当補佐官(現任)

株主優待

1,000株以上ご所有の株主の皆様には株主優待品を贈呈いたしております。

6月末現在の株主様

1,000株以上2,000株未満 ▶ 2,000円相当の米穀製品
2,000株以上 ▶ 4,000円相当の米穀製品等※

12月末現在の株主様

1,000株以上 ▶ 3,000円相当の米穀製品

※うち2,000円相当は「切り餅」を12月中頃までに贈呈いたします。

ポイント1

年2回の贈呈

12月末現在の株主の皆様

▶ 3月頃発送

6月末現在の株主の皆様

▶ 9月頃発送

ポイント2

当社
米穀製品を
お届けします。

※ 優待内容や
商品デザインは、
変更する場合が
あります。



配当金

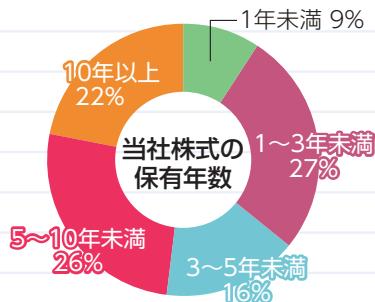
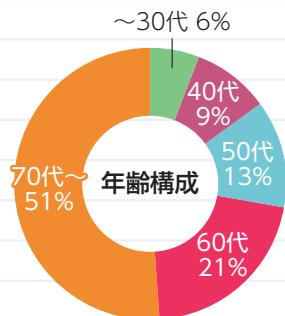
当社は、株主様に対する利益還元を重視する一方、安定的な経営基盤確保のため、内部留保のより一層の充実を目指し、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としております。

■ 1株当たり配当金の推移

単位：円



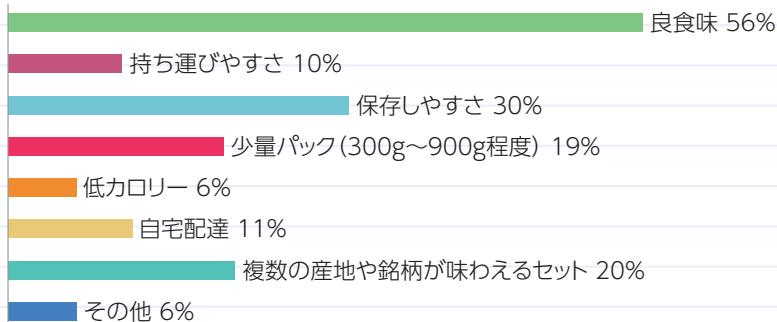
第68期株主通信 アンケート結果



当社の商品をご購入されたことはありますか？（複数回答）



今後、家庭で消費するおコメに対して、期待することは何でしょうか？（複数回答）



実施期間：平成28年3月30日から5月31日まで ご回答数：231通(返送率13%)

当社に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

- スーパーなどでお米のふくろがそのまま持ち運びやすくなって「とって」がついている商品がいい。(女性・神奈川県・50代)
- 今は米離れが言われていますが、いずれは足りない事態に又インフレ銘柄として期待しています。(女性・兵庫県・50代)
- 日本の食生活が海外で注目されている。品質向上につとめてほしい。(男性・大阪府・70代以上)
- 最近は大学が元気なようですので農大との連携に期待しています。人工知能の活用も考えてください。(男性・東京都・60代)
- 当初は利ざや稼ぎのために投資していたが株主優待を何度か経験している内に商品の魅力にはまっている。(男性・神奈川県・60代)
- 有名ではないがおいしいお米の発掘と啓発。売上げを伸ばすことが日本の食文化の継承につながる。(男性・東京都・40代)

株主の皆様へ

第68期株主通信においてお願いしておりました株主アンケートでは、大変多くの株主の皆様からご回答いただきました。日本における家庭での米消費量は少子高齢化や食の多様化のため年々減少してはいますが、美味しさをはじめ、利便性を高めた消費者の方々のニーズに応える商品作りによって消費減少を食い止めるとともに、様々な取組みで国内外の消費を拡大し、企業価値の向上に努めて参ります。皆様からの貴重なご意見には全て目を通し、今後のIR活動や商品開発の参考にさせていただきます。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

会社概要・株式情報 (平成28年6月30日現在)

● 会社概要

商号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業

本店所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22

本社所在地※ 〒132-0011 東京都江戸川区瑞江4-44-17
TEL: 03-5636-1501(代表)
FAX: 03-5636-1601

資本金 5億2,950万円

従業員数 255名(臨時雇用者を除く)

ホームページ <http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

※本社移転のお知らせ

平成28年9月20日(火)より、オフィス機能の集約および業務効率化、従業員増加への対応を図るため、本社を下記に移転いたします。

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町2-8 木徳神糧小川町ビル
TEL: 03-3233-5121

● 役員 (平成28年6月30日現在)

取締役

取締役会長 木村 良
代表取締役社長 平山 惇
取締役専務執行役員 三澤 正博
取締役常務執行役員 天川 誠
取締役常務執行役員 鎌田 慶彦
取締役常務執行役員 稲垣 英樹
取締役常務執行役員 石田 俊幸
取締役執行役員 竹内 伸夫
取締役執行役員 竹田 光男
取締役(社外) 秋岡 栄子

執行役員

執行役員 大橋 正博
執行役員 岩苔 永人
執行役員 家辺 義之
執行役員 石森 好宏
執行役員 管 益成
執行役員 山田 智基

監査役

監査役(常勤) 伊豫田直記
監査役(社外) 杉野 翔子
監査役(社外) 福田 眞也

● 株式の状況

- 発行可能株式総数 30,000,000株
- 発行済株式の総数 8,530,000株
- 株主総数 1,754名
- 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村 謙三	405千株	4.77%
濱田精麦株式会社	362	4.26
木村 良	356	4.19
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.53
株式会社神明ホールディング	247	2.91
稲垣 辰彌	230	2.71
木村 友二郎	230	2.71
水野 正夫	228	2.68
株式会社三井住友銀行	186	2.19
農林中央金庫	186	2.19

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は、自己株式(48,896株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月に開催いたします。

基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日

配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払を行うときは6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所

公告方法 日本経済新聞

商品紹介

可愛くお手軽なおコメを新提案！



無洗米 栃木なすひかり

栃木のオリジナル品種「なすひかり」はコシヒカリを母に持ち、粒がやや大きいのが特長のおコメです。お手軽にお試しいただくため、3合の食べきりサイズでご提供しています。

※12月下旬までの期間限定商品です。また、予告なく取扱を終了する場合がございます。

インターネット通販サイトLOHACO(ロハコ)に掲載していただいています。*

おいしい栃木なすひかりを手軽に試して頂くために小容量化し、ロハコの主なユーザーである女性に可愛いと思って頂けるように、イメージキャラクターのとんぼと稲穂をモチーフにして暖かい赤色でデザインしました。

皆さんに気に入って貰えると嬉しいです！

米穀事業営業部門

きむら さやか
木村 彩

(入社2年目)



日本の 特産品

(表紙から)



岩手県最大手米穀卸の「純情米いわて」への出資により関係強化を図りました。そんな当社との絆が深まった岩手県の世界遺産や特産品をご紹介します！

1 平泉

三方を大小の川に囲まれ、西に小高い山々を頂き、中央を「奥の大道」が通り抜けた要衝の地です。奥州藤原氏三代がおよそ百年にわたって文化を築きました。

2 南部鉄器

17世紀中頃、南部藩主が京都から盛岡に釜師を招き、茶の湯釜を作らせたのがはじまりです。1975年に、国の伝統的工芸品として指定されました。

3 わんこそば

お椀に入った一口ほどのそばを、お給仕との掛け合いでお代わりし、お椀を重ねる独特の食文化です。「わんこ」とはお椀を意味する岩手の方言です。

4 南部せんべい

古くから岩手県や青森県を中心とする南部地方で親しまれてきた家庭の味であり、さまざまな形で食され、人々の生活に寄り添ってきた食品です。

5 銀河のしずく

今秋本格デビューした岩手県のブランド米は、白くてつややかな見た目、寒さや病気に強く、「コシヒカリ」と同様に粘りやうまみなどのバランスがとれた食味が特長です。



トップページ

より多くの方々に当社を理解していただけるよう、専用コンテンツ「1分で分かる木徳神糧」をはじめ、R情報やレシピ情報などホームページの充実を図っております。是非ご利用ください。



IR情報



1分で分かる木徳神糧

旬の食材を使ったレシピ

簡単料理メニュー

くるみ&チーズのもっちりパン

ご飯を使って、ボン・デ・ケージョ風の仕上がりに！

調理時間 30分
カロリー 156kcal
(1人分)

材料 (8人分)	ご飯(温かいもの) …………… 200g	卵…………… 1個
	牛乳…………… 1/2カップ	片栗粉…………… 100g
	塩…………… 小さじ1/3	くるみ…………… 30g
	米油…………… 大さじ1	プロセスチーズ…………… 40g

Point

- 牛乳は小鍋に入れ弱火にかけるか、電子レンジにかけ人肌程度に温めておく。
- フードプロセッサーにご飯、牛乳、卵、塩、米油を入れペースト状にする。これをボウルに入れ片栗粉を加えて混ぜる。さらにくるみとプロセスチーズを加えて混ぜ合わせる。
- 手に米油(分量外)をつけ、8等分にした②をそれぞれボール状に丸める。これをオーブンシートを敷いた天板にならべ200℃で20分焼く。

- 冷めたら、オーブントースターで少し焼くと中のチーズがとろけて2度美味しく食べられます。
- 冷凍保存しておけば、翌日の朝食でも食べられます。